

ふるさと教育 取組事例

学校名	津和野市町村立津和野中学校		
学年	主な教科等	主に関わる単元名	活用した教育資源 (ひと・もの・こと)
2. 3	総合的な学習 の時間	ツワトーク ～大人とツワトーク・小中ツワト ーク・中高ツワトーク～	地域住民 小学生 高校生
ねらい	大人とツワトーク：地域の方の様々な生き方や考え方に触れるとともに、自分を語ることを通して、自己理解をより深め、進路学習やキャリア学習に役立てる 小中ツワトーク：ツワトークで体験した対話活動を、小学生を相手に自分がリードした形でできるか追体験し深めていく 中高ツワトーク：先輩がどんな高校生活を送りどんな成長をしたのかを知り、自分自身の高校生活について前向きかつ具体的なイメージをもつ		
<p>1 取組の概要 2学期に、農林業体験を終えた2年生、職場体験を終えた3年生を対象に実施。様々な年代、職種、属性の大人が集まり、中学生との1対1の対話を行う。職場体験では「職業」「職場」を通じて大人の姿に出会った中学生が、次はさまざまな年代・属性の「一個人」の生き方に出会う機会として「ツワトーク」を実施した。大人とのツワトーク後、3年生が小学6年生と1対1で対話をする小中ツワトークを実施した。また、2年生については、3学期に津和野高校生と1対1で対話する「中高ツワトーク」を実施した。</p> <p>2 ふるさとの「ひと・もの・こと」をどのような力を付けるために、どのような意図をもって活用したか。 (ふるさとへの愛着や誇り、貢献意欲の視点から) ・様々な立場の「ひと」との対話を通して、地域に対する思いや一人の大人としての生き方や考え方についての多様な価値観に触れ、自分自身の生き方について考える機会とする。 ・津和野町での様々なチャレンジや取り組みをしている大人と出会うことで、津和野町の魅力を感じると共に「自分もやってみよう」という当事者意識の育成を図る。 (学力育成の視点から) ・年代や立場が異なる人々と対話することで、多様なコミュニケーションをとるための対話力、自分の思いや考えを相手に伝えるために工夫する表現力の向上を目指す。</p> <p>3 児童・生徒に見られた変容（どのような力が身に付いたか等） (ふるさとへの愛着や誇り、貢献意欲の視点から) ・地域の大人の経験や想いに触れることで、津和野町やそこに住む人の魅力を感じる事ができた ・多様な人と話すことによって、様々な価値観を知り自分の生き方について考える事ができた。 (学力育成の視点から) ・多様な人との対話を重ねることで、コミュニケーション力が養われ、相手意識をもった表現の仕方を身につける事ができた。</p> <p>4 課題や今後の展望 生徒の実態やニーズに応じた話し相手をどう招くか、大人にとっての学びをいかにデザインし、協力者層をどう広げていくかが課題である。 また、津和野町ではふるさと教育とキャリア教育を一体と捉え、ツワトークをキャリア教育の一環として位置づけている。ツワトークと職場体験などの他のキャリア教育との紐づけを明確にすることや、事前事後の学習を充実させることで、この機会をより生かすためのカリキュラム整理を行っていきたい。</p>			



*取組の様子がわかるような写真を数枚貼り付けてください。

(このデータをHP等に掲載することがありますので、写真は必ず承諾を得たものを貼り付けてください。)